

だけは保存して持っております。そうしたら、訪ねられた政治家、名前なんていったかなあ、この頃、これがもうボケの始まりなんですよ。名前、忘れちゃうんですよ。その世界的政治家だと言われた人が、金森に対して「この憲法では、もしかしたら三笥日の原爆がまた日本に落ちることになるぞ。国家とか天皇とかいう言葉がある憲法のうちには、三笥日の原爆はまぬがれないんだ。そう言われて金森徳次郎顔色なしですよ。実際、またそうですね。この調子でいったら、何年か先に徴兵制になるのかもしれない。日本の軍隊が世界のどこかに出ていくのかもしれないという情勢ですよ。それはやはり、終戦直後の新しい憲法をもっと検討に検討を重ねて民主憲法におかかったからですね。憲法が国民の生活を規制する力をもつてる以上、これは完璧なものにおかなければいけなかったわけですよ。あのださくさくの中で、食う物もろくにない中で、やつと憲法をでっち上げた……でっち上げたというと語弊があるかもしれませんが、やつとこまで出来た憲法だから、不備な点があるのは当然としても、それから何十年も経った今日、まだその憲法がそのまま通用しているというのはおかしいんじゃないですかね。絶対に文化的な憲法にしなければいけない、と思うのです。

わたしが憲法の条文の中で一番気になるのは、第十四条の締め括り部分ですね。「国民は社会的身分又は門地により、差別されない」。これでは、身分や門地はあることになるんですよ。身分、門地があることが差別の現実なんです。

（政治家の名前は尾崎雪室でした——筆者註）

「文化」とは何か

わたしが、ちょっと気になるのは、「文化」という言葉ですね。日本は文化国家になったんだと。人間の生き方は文武という二つの道があるわけですね。文化国家になるか武力国家になるか、どっちかの道があるんですね。原爆の苦い目をみたくて、これは戦争はもうだめだと、日本は文化国家になりますと。憲法九条があるから文化国家になったという人もあるし、いろいろその人によって説明は違ふと思いますが、では、いったい「文化」とは何でしょうね。「文化」というのは、簡単に言って、命を大事にすること、これが「文化」なんです。命を大事にすることが、つまり文化国家なんです。文化国家に権力構造があるなんていうのは、矛盾しているんですよ。権力というのは何のためにあるの。権力は下を弾圧し、搾取するためにあるん